

「三河一向一揆」

社会的背景 と 三河武士たちの動き

一筆啓上作左の会 総会

三河一向一揆の社会的背景と
三河武士たちの動き



講師 市橋 章男 氏



◆講師プロフィール
1954年岡崎市生まれ。國學院大學で史学を専攻。新編岡崎市史調査員。教職員退職後、ふるさと岡崎にかかわる歴史・人物の著作活動を始める。

2005年、岡崎長善館で「おかざき塾歴史教室」を主宰開校。2017年、タニザワ大学研修センターで「岡崎ふるさと歴史講座」を開催。元二松学舎大学大学院研究員。全国歴史研究会特別会員。

◆いつもお呼びいただき大変嬉しく思っています。私は六ツ美西部小学校の開校時に赴任しました。懐かしい思い出です。「作左の会」も、六ツ美西部小学校の学芸会がきっかけで開校の少しあとに発足しています。その後、充実した活動をされていますが、それは会のパンフレットにも表れています。このパンフレットは、こういう会のものとしては全国的にもトップクラスだと思います。ぜひ、このパンフレット、そして会の活動をこれからも大切にしてくださいと思います。

◆今年は大河ドラマ「どうする家康」で盛り上がっていますが、残念ながら『作左』は出てきません。私はNHKに、「それはおかしい」と言っているのですが駄目でした。「三方原の戦い」にも『作左』は出てきませんが、本当は重要な働きをしているんです。パンフレットにも記載されていますが、戦いで奮戦しただけでなく、戦いの前に、いざというときに供え兵糧を浜松城に蓄えており家康を喜ばせたと言います。兵糧は戦いの勝敗を左右します。家康は兵糧(米倉)のあった所に作左の屋敷を作ることを許し、そこは城の守りの重要な場所ともなり「作左曲輪」と呼ばれていました。

原文 “一筆申す 火の用心 おせん瘦(や)さすな 馬肥やせ かしく”

◆ドラマを契機に「徳川実記(東照宮御実紀)」を読み返しました。作左の手紙は“一筆啓上 火の用心 お仙泣かすな 馬肥やせ”ということで広まっていますが、実記には、原文が「おせん瘦(や)さすな」だとなっています。“泣かすな”で定着していますからそれでいいですが、史料を詳しく見ると、いろいろな発見があります。

◆プロジェクター画面の左は、家康役の松本潤、右は本證寺住職・空誓役の市川右團次です。一向一揆の時の実際の年齢は、家康；22才、空誓；19才です。大分感じが違いますね。2人は一揆で対峙しましたが、その後仲良くなります。いずれにしろ、大河ドラマに作左が出てこないのは、NHKの失敗です。



一向一揆の背景

○浄土真宗はなぜ急速に人々に支持されたのか？

(西三河にはなぜ浄土真宗が多いのか)

◆奈良時代の終わりに即位した桓武天皇は、奈良仏教が力強くなりすぎたのを嫌い、都を移しました(→長岡京→平安京)。奈良に、巨大寺院を置き去りにしてきたのです。

◆その後、桓武天皇・嵯峨天皇は奈良仏教に対抗しうる「新しい仏教」として、『密教』を保護しました。天台宗や真言宗です。

庶民信仰へのシフト 鎌倉新仏教

◆阿弥陀経一念仏

「南無阿弥陀仏」を唱える

◆蓮華経一題目

「南無妙法蓮華経」を唱える

簡易な信仰の形

- ◆密教は、個人的に仏教を教えること（師僧から弟子へ伝える）で広めるという仏教です。すべての仏教の真髓を個人的に伝えるのです。
- ◆天台宗（最澄）は比叡山（延暦寺）に、真言宗（空海）は高野山（金剛峯寺）にと、都市・世俗を離れました。（＝山岳仏教。奈良仏教は都市部に展開）
- ◆密教（平安仏教）は皇室や貴族の現世利益志向に応える性質を備え、当時は、皇室や藤原氏などの貴族のための仏教、という性格を基本的に持つものでした。また、密教は仏様が多い（多仏）のが特徴でもあります。

熱心な信徒を生み出す原点は「聖徳太子信仰」



聖徳太子二歳「南無仏」像
瀧性寺（岡崎市菅生町）蔵

浄土思想の登場…末法思想の影響で浄土信仰が広がった

悩みなどから解放されたい、この世で幸せに暮らしたいと、この世での救いを求める（現世利益）のが密教。
現世利益を追求するのではなく、来世に救いを求めるのが浄土教。
〔仏の住む苦しみのない世界（＝浄土）への往生（＝浄土に生まれる）〕

末法思想…平安時代中期から流行した仏教の歴史観。釈迦の死後2000年すると末法の世となり、釈迦の教えを誰も聞かなくなり（仏法がおとろえ）世の中が乱れるという思想。1000年（正法の世）は釈迦の正しい教えがまだ存在し、その後の1000年（像法の世）は仏教が形骸化。この1000年が終われば末法となる。日本では1052年からその時代に入るとされた。（釈迦の入滅は、紀元前949年）

- ◆飢饉や、都（平安京）での疫病（天然痘）の流行などによって、貴族が仏の力に頼るようになりました。そこに浄土思想が出てきて、苦しくなったら極楽浄土に、という浄土信仰が広まっていったのです。
- ◆浄土信仰・阿弥陀信仰を、末法が近づいた頃に流行させた仕掛け人に、比叡山の僧侶「恵心僧都 源信」がいます。恵心（源信）は、仏教書「往生要集」を書いています。1巻のタイトルが「厭離穢土」、2巻のタイトルが「欣求浄土」です。〔「厭離穢土」の章；生前の所業の報いに応じ、餓鬼道に落ちた亡者の姿（地獄・餓鬼・畜生・修羅…）、「欣求浄土」の章；臨終に際し、阿弥陀如来を中心に沢山の仏が迎えに来て、極楽浄土へ導き、救ってくださる〕
- ◆「厭離穢土 欣求浄土」（おんりえど ごんくじょうど；けがれたこの世を離れて、極楽浄土に生まれたいと願う）は、徳川家康の旗印ですが、恵心僧都源信の教えを旗印にしたのです。

鎌倉新仏教

- ◆こうした、末法思想の影響、社会不安・政治的混乱の中から新しい仏教が要求され、人々に仏の道を教える鎌倉仏教が出てきました。
- ◆他力本願（修行によって悟りを得るのではなく、阿弥陀仏の本願に頼って成仏すること）を旨とする浄土系諸宗（浄土宗、浄土真宗、時宗）、天台宗系の法華宗（日蓮宗）、禅宗系（臨済宗と曹洞宗）の6宗を鎌倉新仏教としています。
- ◆新仏教は、念仏・題目・坐禅などのたやすい方法で、誰もが仏の救いにあずかり得ることを説き、より民衆化しました。
- ◆新仏教の開祖はみな比叡山で学んでいます。だから、比叡山側は新宗は比叡山から出たと思っています。

伝・親鸞説法場所

棟札 正和3年
(1314)の建立
桁行三間
梁間三間の
方三間、寄棟造、
檜皮葺、
一間向拝付



妙源寺柳堂（岡崎市大和町）



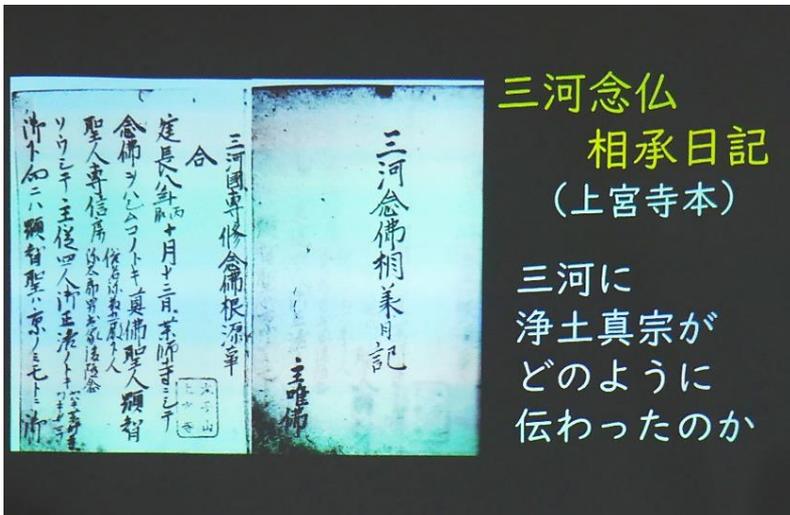
親鸞上人
「安城の御影」
(国宝・西本願寺蔵)

親鸞聖人の高弟で「願照寺」（岡崎市舳越町）の開基 専信房専海が持っていた「安城御影」。8代の了正の時、本願寺に収められ、現在は国宝として西本願寺にある。（親鸞83歳の姿 絵師；朝円）

親鸞聖人の柳堂説法で真宗への帰依が広がった…?

- ◆親鸞聖人が関東から京都に戻る際、柳堂で説法したとされますが、妙源寺^{注1}の柳堂は1314年の建立であり、年代があいしません。これは後世に作られた「伝承」でしょう。この伝承は妙源寺柳堂だけでなく広がりを見せています。
- ◆実際に布教したのは、高弟の「真仏」「顕智」です。真仏、顕智は、真宗高田派の中心的な存在になった人です。

◆三河での真宗の始まりについては「三河念仏相承日記」（写本：上宮寺^{注2}蔵）に記されています。

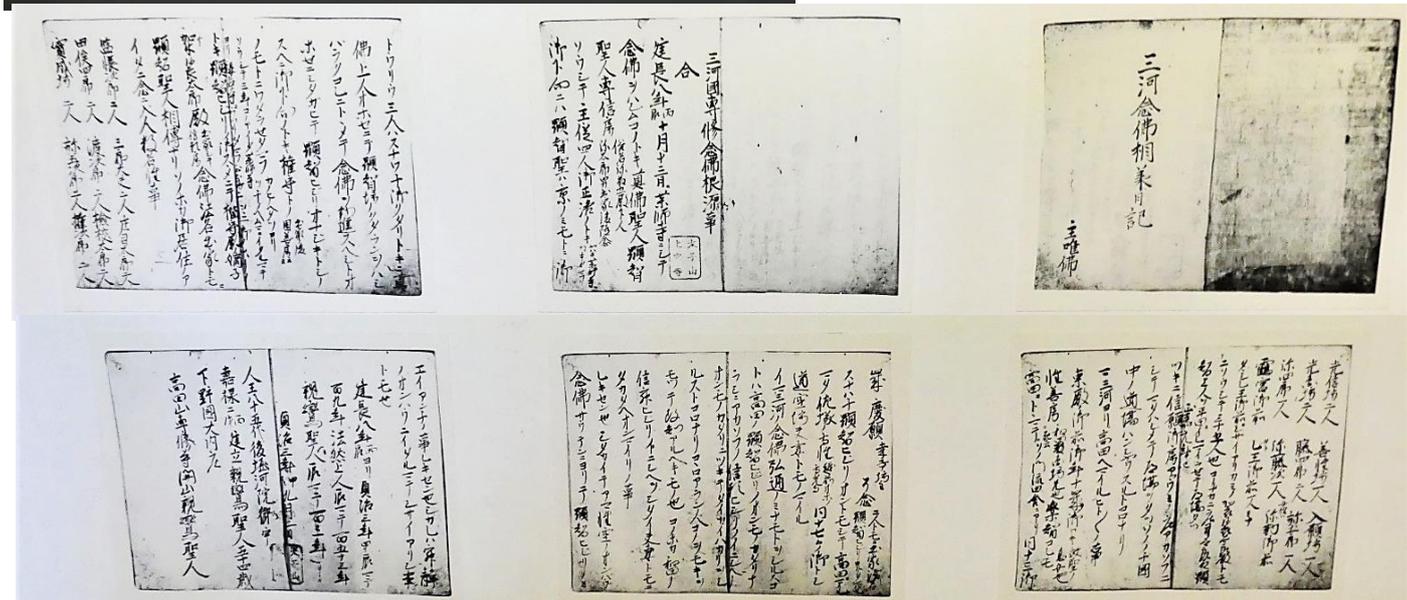


三河念佛相承日記 (上宮寺本)

三河に
浄土真宗が
どのように
伝わったのか

三河念佛相承日記によると、高田の「真仏」「顕智」「専信」が、親鸞聖人を訪ねて上洛の折に、矢作薬師寺で専修念佛をしたことが三河真宗の始まりであるとしている。その後、顕智が再び三河を訪れ、そこで門弟たちを育てたことから三河に真宗が根付き、各地に道場が建ったことが示されている。そのため多くの三河門徒は、はじめは高田系の門徒であった。

◆昔、矢作に「薬師寺」があり、ここで説法が行なわれましたが、今はありません。しかし、矢作川の河原から薬師寺と銘の入ったものが掘り出されています。



高弟の真仏による布教 高田門徒
高田門徒の高弟・顕智による矢作説法

平田	妙源寺
赤波	勝蔓寺
菅生	満性寺
作岡	

矢作薬師寺
和田円善屋敷に逗留
和田門徒 強い聖徳太子信奉

- ◇平田→妙源寺(大和町)、近くに大和町平田という地名のところがあ。真宗高田派。
 - 一向一揆；家康方
家康が本寺に難を逃れた。
- ◇赤波→勝蔓寺^{注3}(針崎町)、三河における真宗最初の道場が創建されたのは赤波町。1496年、水害に見舞われたため、現在地へ移転。真宗大谷派。
 - 一向一揆；一揆方・拠点のひとつ
- ◇菅生→満性寺、太子堂がある。真宗高田派。
 - 一向一揆；家康方・家康公が出陣の帰途、わずか1騎で寺に。
- ◇作岡→不明、額田郡岡村の字作岡(岡町作岡)というはあるが…？

西三河中心に真宗を広めた和田門徒

和田門徒とは…高田門徒の顕智、専信の門下である円善を開祖とする浄土真宗の流派。三河門徒ともいう。聖徳太子信仰が特に強いグループと言われている。矢作薬師寺の説法後上洛し、しばらく親鸞の元にいた顕智は三河国に戻り、碧海郡和田荘の安藤綱房(出家名；明法房円善)のもとに逗留し、3年にわたり布教活動を行なった。これにより、円善・円善の嫡子(信願)も出家した。顕智が去ったあとは、円善が中心となり三河真宗集団を作り上げていった。円善の住んでいた和田の地名から「和田門徒」と呼ばれるようになった。円善の弟子は越前でも門徒拡大をし、北陸にも勢力をのびた。円善の子信願房了解が「勝蔓寺」を、信願の弟の念信房蓮慶は「妙源寺」を、円善は「明法寺」(安城)を、専信は「願照寺」を建てた。明法寺の門前には「安城御影御傳地」の石碑があり、ここに保存の時もあったらしい。

和田郷の歴史

	鎌倉	室町	近世
(和田郷12カ村)	和田	上和田、下和田、赤渋 真薦堂、天白、井内、野畑	上和田、下和田、赤渋、牧御堂、天白、 井内、野畑、土井、法性寺、坂左右、宮地



木造南無仏太子像
(県指定・満性寺)

聖徳太子信仰

仏教興隆に力を尽くした聖徳太子を崇敬する信仰。太子信仰が広がりはじめは、平安中期に『聖徳太子伝暦』が編集され、救世観音（くぜかんのん）の化身としての生涯が物語られたことによる。鎌倉時代になると、新旧仏教団が太子を日本仏教の祖として追慕・讃歎したので、宗派や身分を超えて全国に広まった。太子堂…様々な寺院に聖徳太子像を安置した堂があり、仏像同様篤く信仰されている。

- ◆岡崎には太子堂が多いです。太子信仰の盛んな地域でもあるのです。
- ◆満性寺の「聖徳太子二歳南無仏像」はすばらしいものです。

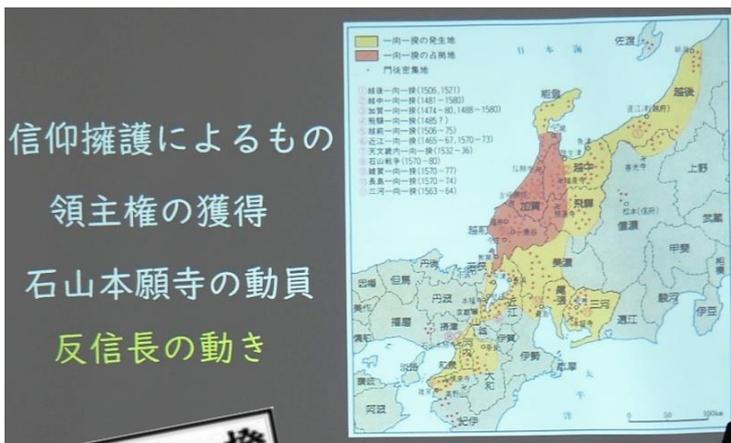
真宗が多いのは蓮如上人の影響が大きい

- ◆京都を追われた蓮如は、親鸞の行跡をたどり、北陸・近江・三河などで布教活動続け、道場を拡大しています。特に三河では多くの信仰を集めました。
- ◆三河での拠点のひとつは、碧南市「西端の応仁寺」です。岡崎では「土呂の本宗寺」を創建しました。「上佐々木の上宮寺」と如光住職も大きな役割を果たしています。

浄土真宗は一向宗ではない（一向宗という宗派はない）

- *一向宗は鎌倉時代の浄土宗の僧侶である一向俊聖を宗祖とする仏教の一派…宗派ではない。
- *親鸞の教えに「一向専念無量寿仏」（ひたすらに阿弥陀仏を念ずる）というものがあることから、他宗派から一向宗と呼ばれた。本願寺からすると一向宗と呼ばれるのは危険なこと（一向宗とは領主層に立ち向かう危険な集団との認識）であり、自称することは許されなかった（本願寺の門徒で一向宗の名前を使ったものは破門）。
- *世間の人々が「あれは一向宗」と勝手に呼んだが、特に浄土宗は、親鸞の教団が「浄土真宗」と自称することを嫌って「一向宗」と呼んだ。←浄土宗と浄土真宗の宗名論争
- *教団外が「一向宗」と呼ぶ風潮は収まることはなかったし、江戸幕府において、一向宗は「浄土真宗」の公称とされた。同時に、本来の一向宗は強制的に「時宗」に統合され「時宗一向派」と改称させられた。
- *明治に入り「真宗」と表記することが認められた。さらに、戦後になって、西本願寺を長とする浄土真宗本願寺は「浄土真宗本願寺派」、それ以外は「真宗〇〇派」の呼称で現在に至る。

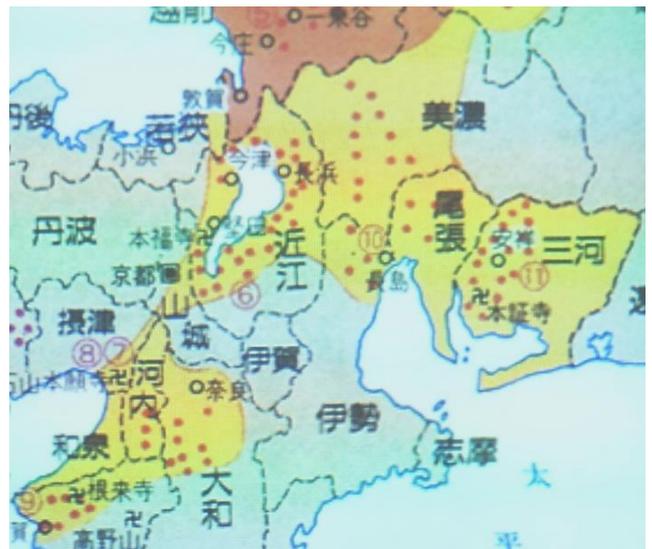
「当流の安心は阿弥陀如来の本願に縋り、一心に極楽往生を信ずることにある」



信仰擁護によるもの
領主権の獲得
石山本願寺の動員
反信長の動き

三河一向一揆
の展開

黄色 一向一揆発生地
赤色 一向一揆占拠地
赤点 門徒密集地



応仁寺 地元民による念仏道場
佐々木如光（上宮寺）の蓮如への帰依

御仏が暮らしを守ってくださる

如光の支配下にあった100余りの
高田派寺院が本願寺派に

- ◆碧南の応仁寺は、蓮如聖人が去ったあと、無住の寺院となり、古くから地元民が守っています。
- ◆上宮寺の佐々木如光住職は、蓮如聖人と師弟の契りを結び最有力門弟となり、本願寺派に改派後、当時の民衆に力強く布教し、西三河矢作川流域を中心に勢力を広げました。（100あまりの道場）
- ◆上宮寺には寺内町もあり、三河一向一揆発端の寺という説もありますが、一揆の大きな原動力でした。

- ◆一向一揆は、1465年の近江金森一揆が最初です。これは、延暦寺の真宗弾圧に抵抗して蜂起したものです（相手は比叡山山門）。1488年に加賀一向一揆。守護大名・富樫政親の真宗弾圧に対抗しました。
- ◆一揆を起こすのは、僧侶、武士、農民、商工業者などによって形成された宗教的自治組織です。蓮如の教え“この無秩序な戦乱の世の中から阿弥陀さまが救ってくださる。阿弥陀如来の本願にすがり一心に極楽往生を信ずること”に従い、自分たちの暮らしを守る組織を作っているのです。
- ◆1570年（元龜1）から石山合戦（織田信長と石山本願寺の戦い）が始まり、本願寺頭如は全国門徒に総決起を指令します。三河一向一揆は1563年です。三河各寺に対して、本願寺から指令・動員があったということはまったくありません。

本宗寺（土呂御坊）寺内町

有力寺院
寺内町の形成
惣

寺院を中心とした自治区

「土呂」
(新編福岡町史)



土呂本宗寺 → 一家衆寺院

佐々木上宮寺
野寺本證寺
針崎勝鬘寺 → 本山直参寺院

惣の形成と自治 → 寺内町は寺院を中心とした惣(自治区)

惣(そう)＝中世の自治的な組織の総称(鎌倉時代から室町時代に発達をみた)。村なら「惣村(そうそん)」

- ◆寺内町には、僧侶、武士、農民、商工業者など、すべての人が一緒に住んでいるんです。惣がひとつの町(村)なんです。土呂にも惣がありました(本宗寺の寺内町)。三河三カ寺といわれる、上宮寺・本證寺・勝鬘寺も寺内町を形成していました。

寺内町＝室町～戦国時代に成立発展した人為的な集落。浄土真宗の寺院を中心に形成された自治集落。防衛体制(土塁や堀など)を整えていた。町の全域が寺院の境内と見なされる。門前町(＝参詣者相手の商業地)とは違う。

一向一揆は地域により起こり方(原因)が違う

三河一向一揆の構造

一向宗寺院

松平家康

三河一向宗の広がり ↔ 西三河の支配権拡大
一向宗門徒の家臣増大

寺内町(惣)の形成
不入権の獲得
太子信仰一商工業者
豊富な財源
経済的基盤の充実

兵糧米などの不足
領主権の行使
経済的基盤の不足

- ◆上宮寺・本證寺・勝鬘寺の三河三カ寺は、家康の父広忠から「守護不入の権」を与えられていました。検断権(逮捕)の拒否、年貢・諸役の免税です。この特権をもとに寺内町を形成し、寺内から取り立てた諸税で強力な経済力を有していました。
- ◆三河一向一揆の発端は、家康の家臣が、上宮寺から兵糧とする穀物を奪ったから、本證寺に侵入した謀反人を捕縛したから、などと説は分かれますが、いずれにしても家康が、不入の特権を持つ本願寺系寺院に介入したため勃発したのです。(三河統一を目指す家康としては、どうしても解体をしなければならぬ存在でもあった)

◆一向一揆は各地に多くありますが、発生のしかたはそれぞれ違います。三河一向一揆は宗教的信仰心から起こったものではありません。既得権益を守ろうとする本願寺派と家康との政治闘争だったと言えるでしょう。家康の家臣も、本願寺側につく者と、改宗する者の双方にわかれます。同じ家で親兄弟が別れることもありました。

家康家臣団の分裂―「上級家臣」と「下級家臣」の対立

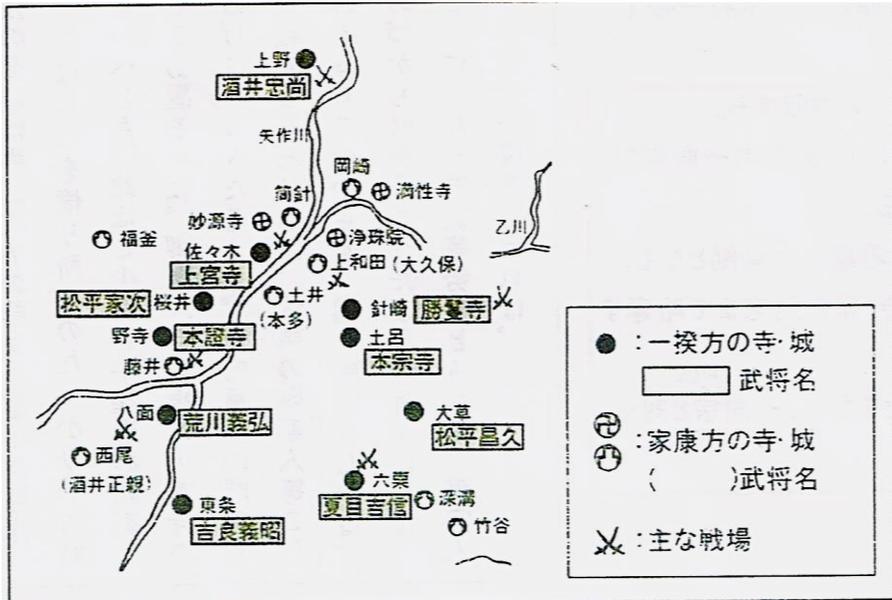


図1-4-23 一向一揆関係図

◆三河一向一揆では家臣団の分裂もありました。また、多くが一族の間で一揆方と家康方に分裂して戦っています。

- 槍の名手の渡辺守綱は、一族すべてが一揆勢に加わりました。
- 大久保一族は、居城上和田城を家康方の拠点として戦っています。
- 石川氏は、重康・正俊らが一揆方家成・数正らが家康側と分裂。
- 鳥居兄弟は、弟 忠広が一揆方。兄 元忠が家康方に。
- 酒井忠尚（豊田 上野城主・門徒ではない）は一揆方に。甥の忠次は家康方。
- 兄 榊原清政は一揆方。弟 康政は家康方に。
- 本多氏は、正信・正重兄弟は一揆方に加わったが、広孝・忠勝が家康方に残りました。

本多作左衛門重次はもちろん迷わず改宗し、家康に付き従いました。

- 徳川家臣団をざっくり分けると、側近・上級家臣は家康に従い、それ以外の、門徒である在地の武士や上級家臣内の勢力争いに敗れた者たちが一揆方についたというように言えます。「上級家臣」と「下級家臣」の対立でもあったのです。

大河ドラマ“どうする家康” 一向一揆の戦いの場面がなぜ、安城野畑の「本證寺」なの？



全国的にも珍しい遺構が残る
本證寺注4（安城市 野畑）

鼓楼・水濠 城郭伽藍の面影

ドラマでは「野寺本證寺」が描かれる
 そのワケ

発掘調査などで、城郭造りの寺の形状や
 寺内町の全容が明らかになりつつある

寺に史料が多く残される…「武士たちの
 連判状」や、僧「空誓」の活躍等



戦う僧空誓
 蓮如のひ孫
 家康と同年
 くらいか？
 後年は家康
 と懇意に

「空誓（くうせい）上人」… 本證寺十代住職。三河一向一揆で一揆方の中心人物となった。浄土真宗本願寺派、中興の祖である「蓮如」の曾孫。九代の玄海が加賀一向一揆に加担して戦死したことから、その跡を継いで住持となった。1563年に本願寺教団は赦免されるが、空誓は仲介を担っていた本多重次（作左）の書状を改竄し、家康の許しが出たと偽って幡豆郡荒川に道場を建立してしまった。重次はこの暴挙を「仏に仕える身でありながら、何と不屈きな」と非難し、本願寺に本證寺の処罰を求めている。

本證寺の惣の
実態調査より
(安城市)

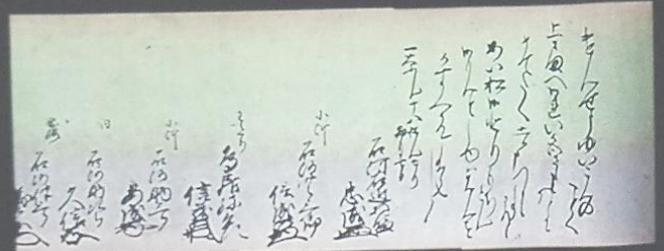


- ◆周りに土壘、二重の堀（内堀・外堀）がある城のようなお寺です。非常に広いです。今の敷地の4倍くらいあります。
- ◆安城市が年月をかけてきちんと調査をしてきているので、寺内町の全容がだんだんわかってきました。

本證寺門徒連判状

- ◆115人のうち、石川氏は33人もおり、筆頭に署名するのは石川忠成（清兼）です。忠成は石川数正の祖父です。
- ◆上下関係だけでなく、自分たちは本證寺の門徒であると、横社会を作って結束しています。
- ◆一揆の連判状だという人がいますが違います。一揆の14年前に作られています。後継者を守って行くという約束です。

ご講演ありがとうございました。



本證寺門徒連判状（安城市埋蔵文化財センター）

天文18年（1549）、本證寺の有力武士門徒115名が、本證寺八代源正もとまさの遺言に対して忠誠を誓い署名した文書
松平・今川・吉良・水野氏に仕える者の署名

- 「地域の歴史を探る会」探訪日
- 注1；妙源寺 2022年12月10日
 - 注2；勝曼寺 2022年2月26日
 - 注3；上宮寺 2021年12月18日
 - 注4；本證寺 2021年10月23日

HPに「探訪記」載せてます。



作左の会

検索



一筆啓上・作左の会

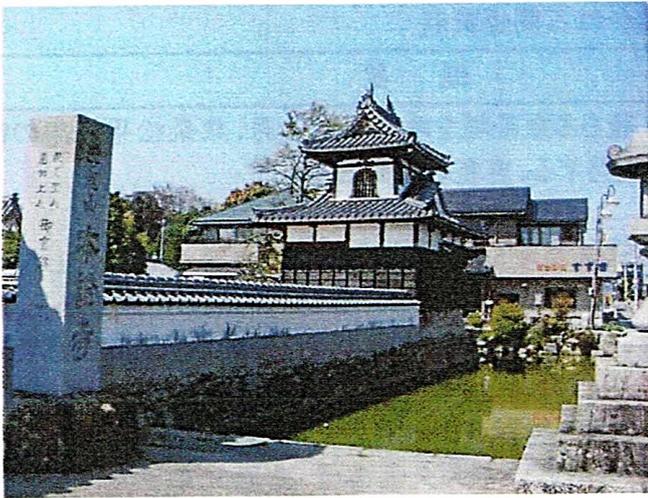
<http://sakuza.g1.xrea.com/>

（記）竹内 喜則

時間がなくなりましたので、ここからは自主学習で!! (*^o^*)

一揆の経過 の部分は大河ドラマで描かれる関係資料

年月日		場所	概要
永禄6年 (1563)	10月中旬	東条城	吉良義昭の立て籠もる東条城を攻める。12月、東条松平家忠の家老、松井忠次が攻略する。吉良義昭は出奔。
	同月(?)	上野城	酒井忠尚による岡崎城攻撃未遂。吉良義昭の挙兵に呼応したのか? 矢作川を渡り岩津に攻め込むが、事前に内応した武士あり。家康方の伏兵に会い、上野城へ退散。翌年9月まで籠城し抵抗を続ける。
永禄7年 (1564)	1月11日	上和田砦	土呂(本宗寺)・針崎(勝鬘寺)一揆が上和田砦に押し寄せ、大久保一党と大激戦。この戦いで大久保忠世・忠勝兄弟は共に片目を負傷。家康が駆け付け、劣勢を持ち直すが、鶴殿十郎三郎と宇津与五郎が蜂屋半之丞貞次と渡辺高綱に討ち取られた。その渡辺高綱は甥である内藤家長に射殺された。
	1月12日	上和田砦	土呂・針崎の一揆が再び上和田砦を攻める。家康が再び援軍として駆け付け一揆は後退するが、その際水野藤十郎忠重が殿の蜂屋貞次と槍を合わせたがかなわず退くと、その後槍を合わせた松平金助は討たれた。その直後家康が駆け付け蜂屋に声をかけると、蜂屋は槍を担いで退散した。
	1月13日	針崎 (勝鬘寺)	早朝、大久保一族が針崎に押し寄せる。大久保忠世は本多正重を狙撃し命中したが傷は浅かった。一揆方は大久保勢を挟み撃ちにする計略を立てていたが、蜂屋貞次がそれとなく知らせたため、上和田に引き揚げた。
	1月14日	佐々木 (上宮寺)	深津九三郎、青山虎之助が上宮寺に潜入し火をかけようと試みるが捕まって鳩首される。
	1月15日	佐々木	早朝、佐々木の一揆は桑子の妙源寺に籠っていた家康側と激突した。家康は鐘の音を聞いて加勢に駆け付け、一揆を上宮寺に押し戻した。この時刈谷の水野信元が陣中見舞いに訪れている。
		小豆坂一 美合馬頭 原	対面の最中に、土呂・針崎の一揆が馬頭原から岡崎城に向けて展開している報告を受け、信元と共に加勢に駆け付ける。矢作川を渡りそのまま小豆坂まで押し上がり、石川新九郎・新七郎を将とする一揆勢を攻めた。馬頭原で乱戦となったが家康方が勝利し、一揆方の首130を挙げた(翌日菅生河原に晒す)。 土屋重治の死
	1月25日	六栗城 (野場城)	野寺の本證寺から退却した大津半左衛門、乙部八兵衛らの浪人衆と門徒が、六栗の夏目吉信を頼り籠城。頑強に抗戦したが、深溝松平伊忠が乙部の内応により城を陥した。土蔵で捕えられた 夏目吉信は家康に赦され 、松平伊忠の与力となった。
	2月8日	安城小川	野寺本證寺の空誓を将とする一揆と安城小川で戦う 。桜井の円光寺順正が 空誓の身代わり となって 壮絶な自害 を遂げた。家康は本證寺を攻めずに引き揚げる。



本證寺（安城市）

一揆の拠点となる。僧である空聖がリーダーとなり最後まで抵抗するが順正の身代わり焼身自殺により終息する。安城歴博に多くの資料が残されている。

一向一揆の収束

(1) 一揆側から「和議」を持ち出す（2月中旬）。

・大久保忠佐、忠勝を仲介として、蜂屋貞次が申し入れる。

(2) 一揆側の「三条件」

- ①一揆参加者の赦免
- ②一揆張本人の助命
- ③寺は元の通りに

「御手サエ広クナラセラレ給ハバ・・・」

（大久保忠俊言『三河物語』より）

⇒家康公天下統一への根幹をなす考え方

(3) 起請文の発給—上和田浄珠院での和議成立

（永禄7年2月28日）

- ・蜂屋貞次が石川家成の兵を土呂の寺内に引き入れ、一揆の解体を行う。
- ・桜井の松平家次は降伏し、本領安堵。
- ・東条義昭、荒川義弘、松平昌久は国外追放
- ・上野の酒井忠尚は逃亡（駿河へ逃亡か）

(4) 許された代表的な家臣、その活躍と最期

- ・鳥居忠広・・・帰参を認められる。三方ヶ原の合戦で家康公に対し無謀な出陣を諫めるが聞き入れられず。代わりに先陣して敵の大將を討ち取るが、自分も命を落とした。
- ・夏目吉信・・・三方ヶ原の合戦で窮地に立たされた家康公の身代わりとなって討死。
- ・蜂屋貞次・・・仲間同士の殺戮に耐え切れず、和議を結ぶ。後に家康公が三河の平定に乗り出した際は、旗本側近として随行した。吉田城の攻防戦で家康公を守りながら敵兵の銃弾を浴び討死したとされる。

おつかれさまです



勝鬘寺渡辺高綱の墓碑（針崎町）

渡辺守綱の父。甥である内藤家長に射殺されたが、家長は信長に賞されている（徳川実記）。渡辺父子は門徒武士として家康に抵抗した。



浄珠院太子堂（上和田町）



土呂八幡宮を再建（国指定・福岡町）
家康の命により、石川数正が再建した。江戸初期に代官・畔柳寿学により整備、現在の姿に。西側屋根の部分に陰陽道の五芒星が記されている。

頑張りました。

